

フロントページ98ならできる

アクティブ チャンネル化 計画

11月14日、待望の製品版が発表された。短期集中連載最終回は、フロントページ98の機能を最大限に生かしたホームページ作りに挑戦だ。タイトル文字やボタン、画面切り替えには視覚効果を付け、アクセスカウンターやゲストブック、それに掲示板のページも付けてみよう。もちろん、アクティブチャンネルも設定する。前回作成したものとは段違いに本格的だが、それが予想外に簡単に作れてしまうのだ。

最終回 ワンランク上のホームページ作成に挑戦

藪
暁
彦



+ 応用編 +

ウィザードで作った会社案内ウェブを デジカメ&旅行記ウェブに変更

ウィザードを上手に使うってオリジナルウェブを作ろう

今回作成するフロントページウェブのテーマはデジタルカメラと旅行。デジタルカメラページでは代表的な製品紹介と使い方、ギャラリーを1つにまとめ、旅行ページはデジカメで撮った写真と文章で構成する。さらに、デジカメの情報交換をするための掲示板も作ってみよう。

準備

会社案内Webウィザードで フロントページウェブの基本形を作る

フロントページ98では、まず個々のページを作り、必要なリンクを設定して、ウェブを組み立てていくこともできる。しかし、少しでも作業を楽にしようと思ったら、ウィザードかテンプレートを利用すべきだろう。ところが、用意されているウィザードやテンプレートの中に、今

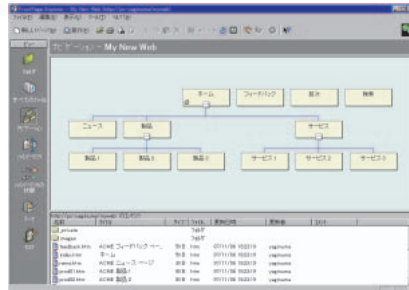
回の構想にピッタリ合うものがない。そこで、もっとも近い「会社案内Webウィザード」を使うことにした。

会社案内Webウィザードで作成するフロントページウェブには、「ニュース」、「製品」、「サービス」の3種類のメインページがあり、それと

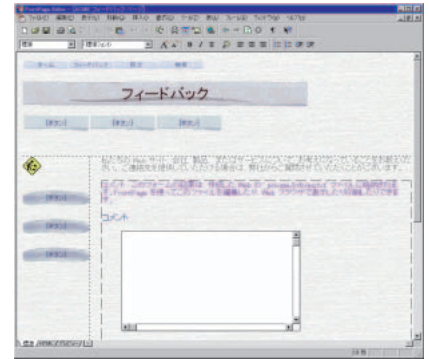
は別に「目次」と「フィードバック」、「検索」ページが用意される。ここでは「製品」を「デジタルカメラ」のページ、「サービス」を「旅行」のページとして使うことにした。なお、「製品」と「サービス」のページ数は、必要に応じて自由に決められる。

「フィードバック」は、会社や製品、サービス、ウェブサイトに対する意見を受け付けるページで、ユーザーからのコメントはテキストファイルとして保存される。この設定を変更すれば、「ゲストブック」として使えそうだ。しかし、新規ページの作成用に用意されているテンプレートの中に、そのものずばりの「ゲストブック」がある。そこで今回は「フィードバック」を削除し、新たに「ゲストブック」を作成する。

「検索」では、ウェブサイトから指定したキーワードを含むページを検索できる。ただし、日本語の検索にはマイクロソフトのインデックスサーバーが必要だ。検索機能が必要なければ、削除してもかまわない。



「会社案内Webウィザード」で作成したフロントページウェブ。「製品」と「サービス」には、それぞれ3ページずつ用意した。



設定を変更すれば、「ゲストブック」にも使えそうな「フィードバック」。送られてきたコメントは、infreq.txtのファイル名で、_privateフォルダー内に保存される。

準備 デジカメ&旅行ページ作成の手順

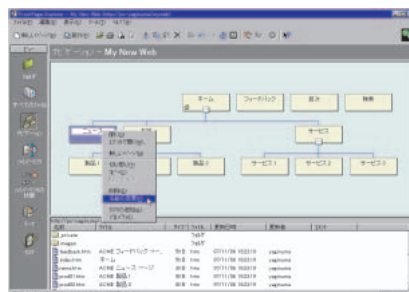
各ページのタイトル変更、文章や画像の挿入など、これからやるべきことを整理すると、次のようになる。

- ① ナビゲーションバーのラベルとページタイトルの変更
- ② 各ページからの不要な部分の削除
- ③ 文章や画像の挿入
- ④ 外部リンクの設定
- ⑤ アクセスカウンターの取り付け
- ⑥ ホバーボタンの設定
- ⑦ ダイナミックHTMLでページを演出
- ⑧ ゲストブックの追加
- ⑨ 掲示板の追加
- ⑩ チャンネルの設定

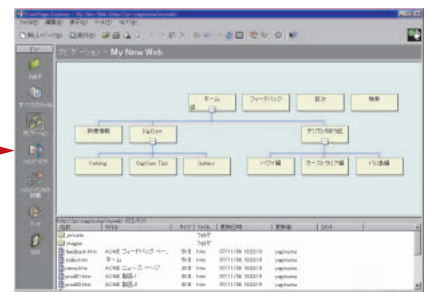
1 ナビゲーションバーのラベルとページタイトルの変更

ナビゲーションバーのラベル変更

前回回説明したように、フロントページ98で作成したページには、ウェブ内の他のページにリンクするボタンが設定されたナビゲーションバーが付く。まず、しなければならぬのが、ラベル(ボタンに表示されたページ名)の変更だ。ラベルは、フロントページエクスプローラのナビゲーションビューで変更する。ラベルを変更したいページにカーソルを合わせて、右ボタンをクリック。ポップアップメニューから「名前の変更」を選んで新しい名前を入力する。



右ボタンをクリックしてポップアップメニューを表示。「名前の変更」を選んで新しい名前を入力する。

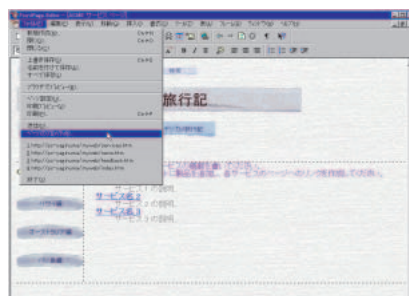


今回作成するウェブの構成に合わせて、ラベルを変更した。

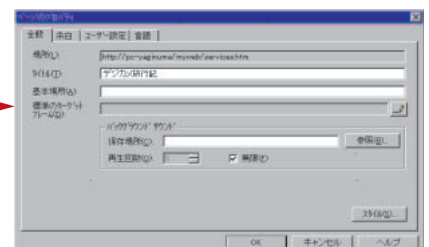
ページタイトルの変更

WWWブラウザのタイトルバーには、そのページのタイトルが表示される。これも変更しなければならぬ。ページタイトルは、ページごとにフロントページエディターで変更する。

「ファイル」メニューから「ページのプロパティ」を選ぶとダイアログが開く。「全般」タブをクリックした画面で、「タイトル」フィールドをナビゲーションバーのラベルと同じ名前に変更する。これでOKだ。



フロントページエディターの「ファイル」メニューから「ページのプロパティ」を選択。



「ページのプロパティ」ダイアログの「全般」タブをクリック。「タイトル」フィールドを新しい名前に変える。

2

各ページからの不要な部分の削除

元が会社案内用のウェブだから、単に文章を入れ替え、画像を挿入するだけでは不十分。不要な項目が随所にある。例えば元「製品」の価格表や情報請求フォームなどは、作成中のページには必要ない。こうした部分はブロックごと削除してしまおう。左ボタンを押したままマウスをドラッグし、いらない部分を選択してDeleteキーまたはBackSpaceキーを押せば削除される。

フロントページエディターで各ページを表示すると、あちこちに「コメント：～」と書かれたブロックがある。これは作業を分かりやすくするためのもので、WWWブラウザには表示されない。作業に支障がなければ、このコメントも削除してしまおう。また、最初は各ページに「工事中」アイコンが挿入されている。作業が終わったら、これも忘れずに削除すること。「フィードバック」のような不要なページも削

除だ。フロントページエクスプローラの適当なビューで、「フィードバック」ページを記述した“feedback.htm”を右クリック。ポップアップメニューの「削除」を選べばいい。「フィードバック」は、もちろんナビゲーションビューからも消える。

3

文章と画像の挿入

文章の挿入と見出しの変更

まず、トップページから順番に文章を挿入していこう。フロントページエディターで直接入力してもいいが、以前書いたようにエディターやワープロソフトで作成したテキストを、コピー&ペーストしたほうが作業は楽だ。本文だけでなく、見出しの訂正も忘れずに。例えば、トップページの「会社概要」部分にはホームページの簡単な紹介を書き、見出しは「のホームページへようこそ」などとする。作業にもっとも手間がかかるのは、メインとなる「DigiCam」と「デジカメ旅行記」の2つのページだろう。ここはマイホームページの一番の見せ場だし、作業量も多い。一度に片づけようなどと考えず、見出しや項目名などを優先的に修正する。本文未挿入のページは、工事中アイコンを付けたままにしておけばいい。

デジタルカメラから画像を挿入

次は画像の挿入だ。今回、DigiCamページのGalleryとデジカメ旅行記には、デジタルカメラで撮った写真を入れる。デジタルカメラで撮影した写真をホームページに挿入する場合、これまでは各カメラ固有の形式から、いったんGIF形式またはJPEG形式にデータを変換しなければならなかった。ところがフロントページ98では、デジタルカメラからダイレクトに画像ファイルを取り込めるのだ。ただし、どんなカメラからでも取り込めるわけではなく、TWAIN対応の機種に限られる。

しかし、取り込んだ画像はそのままでは大きすぎる。縮小表示する必要があるところだけトリミングしてサイズを小さくする必要があるだろう。画像表示サイズは画像のプロパティで設定。トリミングは、フロントページエディター内蔵の画像編集機能で処理できる。

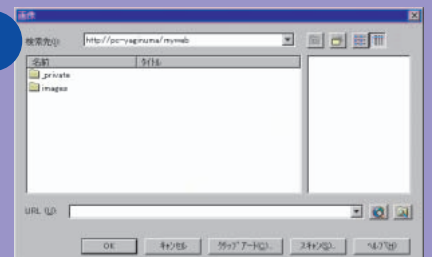
クリップアートでページを装飾

画像を多用しすぎるのは問題だが、ワンポイントのアイコンやバナーを入れて、もう少しページを飾りたい。フロントページ98には、グラフィックツールのイメージコンポーザーがバンドルされている。これを使って、オリジナルのアイコンやバナーを作ろう。

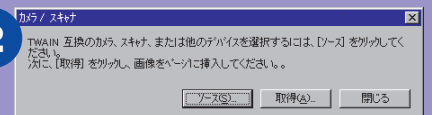
しかし、グラフィック作りは誰もが得意なわけではない。苦手な人はクリップアートを利用するといひ。フロントページ98には、バナーやアイコン、ナビゲーション用の矢印など1500種類近いクリップアートが付いている。いずれもGIF形式で、アニメーションGIFも含まれる。その中から雰囲気合ったものを選ぶのだ。

「挿入」メニューから「クリップアート」を選ぶと、クリップギャラリー3.0が起動する(図a)。付属のクリップアートは、このクリップギャラリー3.0に登録されている。なお、クリップギャラリー3.0には、画像のほかサウンドやビデオも登録でき、自分で作った画像やサウンド、ビデオを追加することも可能だ。

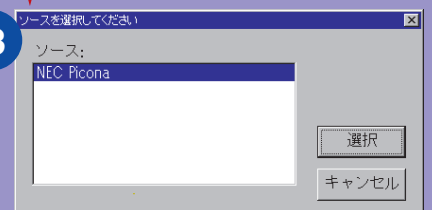
TWAIN対応デジタルカメラからの画像取り込み



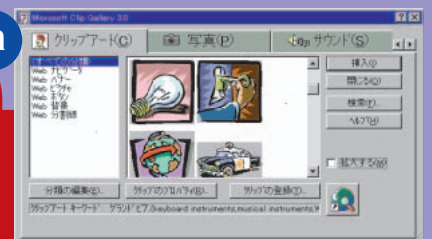
1 フロントページエディターの「挿入」メニューから「画像」を選択。表示されたダイアログ下部にある「スキャン」ボタンをクリックする。



2 表示されたダイアログの「ソース」ボタンをクリックする。



画像を取り込むデジタルカメラを選択する。「取得」で指定した画像ファイルが、カーソル位置に挿入される。



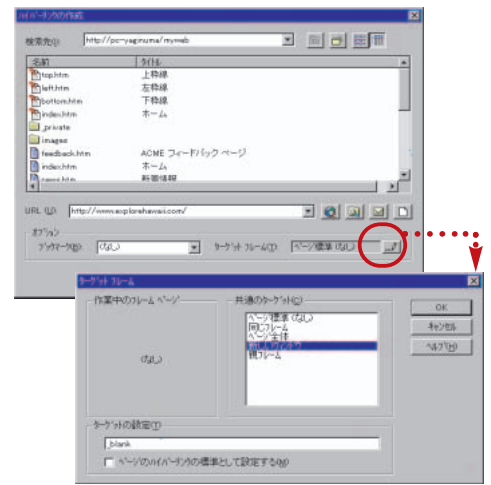
クリップギャラリー3.0上部の「クリップアート」をクリックすると、フロントページ98付属のクリップアートが表示される。登録されているクリップアートは、テーマ別に分類されている。左側のリストボックスに表示されているのが、テーマの一覧だ。

4

外部リンクの設定

新規に作成するページは別にして、サイト内部のリンクは自動的に設定される。しかし、サイト外部へのリンクは手で設定しなければならない。作成中のフロントページウェブでは、デジタルカメラのカatalogページからメーカーへのリンクが必要だ。また、デジカメ旅行記「ハワイ編」から、ハワイ情報が載っているサイトへのリンクもあったほうがいい。

リンクを設定するには、まずリンク文字や画像ファイルを選択する。ツールバーの「ハイパーリンクの作成または編集」ボタンをクリックするとダイアログが開くので、URL入力フィールドにリンク先のURLを入力する。リンク先のページは同じウィンドウに表示させてもいいが、新しいウィンドウに表示させることもできる。



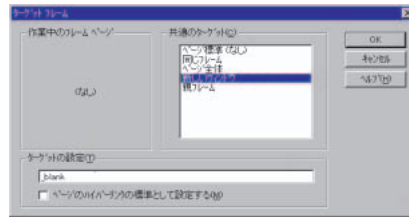
ダイアログの「オプション」欄右側の「ターゲットフレームの変更」ボタンをクリック。表示されたダイアログから、「新しいウィンドウ」を選んで「OK」をクリックする。

5

アクセスカウンターの取り付け

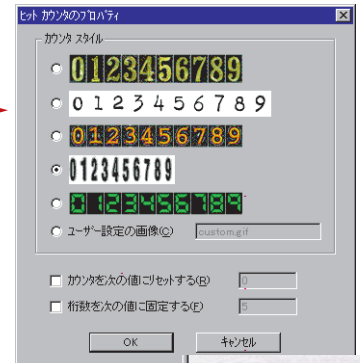
多くのページで目にするアクセスカウンターをトップページに付けてみよう。挿入したい場所にカーソルを合わせて、ツールバーの「FrontPage コンポーネント挿入」ボタンをクリック。表示されたダイアログから、「Hit Counter」を選択する。これがアクセスカウンターのコンポーネントだ。「OK」をクリックすると、カウンターのプロパティダイアログが開く。用意された5種類の中からカウンターのスタイルを選択する。デフォルトでは、カウンターの初期値が0、桁数が5桁に設定されているが、変更することもできる。

カウンターの取り付けは終わったが位置がよくない。左端より中央にあったほうが落ち着き



ツールバーの「FrontPage コンポーネント挿入」ボタンをクリック。ダイアログに表示されたコンポーネントの中から「Hit Counter」を選択する。

そうだ。そこでカウンターを選択し、ツールバーの「中央に配置」ボタンをクリック。これでウィンドウ中央に表示される。



画像を自由自在に作成、編集できるイメージコンポーザー

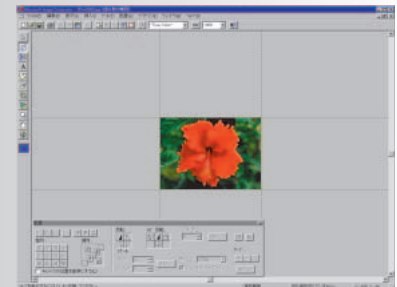
ボタンやバナーを作成したり、デジタルカメラで撮った写真を加工したり、フロントページ98にバンドルされているイメージコンポーザーは、実に多彩な画像編集ツールだ。イメージコンポーザー独特の操作性に、最初は戸惑わされる。だが、ドローツールを使い慣れていけば、操作のコツはすぐつかめるはずだ。

イメージコンポーザーでは、キャンバスに画像オブジェクトを配置し、それぞれの形や透明度、オブジェクト間の前後関係を決めながら、画像を作成する。画像オブジェクトはスプライトと呼ばれ、それぞれ固有の形と透明度を設定できる。イメージコンポーザーで四角形や楕円、多角形などのスプライトを作成できるほか、GIF、JPEG、BMP、TIFFなど一般的な形式の画像ファイルを、スプライトと

して挿入することもできる。スプライトには、ほかし、凹凸、モザイクといったさまざまな特殊効果を加えることも可能だ。

便利なのは、ホームページ用にGIF形式で保存するオプションが用意されていること。ウィザードになっているので、質問に答えていくだけでGIFを透明化するなどの設定ができ、ウェブに最適な画像ファイルを作成できる。そのほかアニメーションGIF作成ツールも付属しているし、ウィザードでボタンまで作ってしまう。

イメージコンポーザーがあれば、グラフィック作りが得意でなくても、ホームページを効果的に飾る画像を作成できそう。少なくとも自分で作ろうという気にさせてくれる、不思議な魅力を持ったツールであることは間違いなし。



処理を加えるスプライトを選び、左側に並んだツールバーから機能を選択。スプライト作成からペイント、特殊効果まで、すべての作業をこの手順で処理できる。

6

ホバーボタンの設定

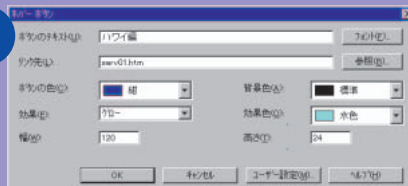
フロントページ98では、カーソルを合わせると凹凸が付いたり色が変わったりするアニメーション付きのボタンを簡単に作ることができる。これをホバーボタンという。ホバーボタンの本体はJavaアプレット。フロントページ98はこれをコンポーネント化し、メニューから選ぶだけで設定できるようになっている。

今回は、このホバーボタンを「DigiCam」と「デジカメ旅行記」のトップページに使ってみよう。ボタンにはリンクを設定できるから、カ

ーソルが重なるとアニメーションが始まり、クリックすると次のページへ飛ぶようにするのだ。

例えば「DigiCam」トップページでは、まず「Catalog」の文字を選択する。続いて「挿入」メニューの「アクティブ要素」から「ホバーボタン」を選ぶ。表示されたダイアログで、ボタンの色や効果、リンク先などを設定する(図 a)。設定し終わったら、ウィンドウ下部の「プレビュー」タブをクリックして効果を確認

a



ダイアログの各項目を設定。「フォント」をクリックすると、ボタンに表示する文字のフォントやスタイル、サイズ、色を変更できる。フォントサイズを大きくしたときは、それに合わせて「幅」と「高さ」を調節すること。アニメーション効果は、元の色から指定した色に変える「塗りつぶし」、グロー管のような効果をつける「グロー」、凹凸をつける「浮き出し」と「くばみ」など、7種類の中から選択。「ユーザー設定」では、ボタンに画像を貼り付けたり、サウンド効果をつけたりすることもできる。

7

ダイナミックHTMLでページを演出

プラグイン、ActiveXコントロール、Javaと動きのあるホームページを作る方法はいろいろある。しかし、こうした機能はいいことづくめではなく、ページが完全に表示されるまでに時間がかかってしまうという難点もある。こうした問題を解消してくれるのがIE4.0のダイナミックHTMLだ。ダイナミックHTMLを使えば、外部ファイルなしで簡単なアニメーションやインタラクティブなページを作れるのだ。

しかし、ダイナミックHTMLは設定が難しい。そこがネックだが、フロントページ98を使えば、アクセスカウンターなどと同じようにメニュー選択だけでダイナミックHTMLの効果を利用できる。あらかじめ用意されている設定を選択するだけだから自由度はない。しかし、最新の技術を簡単に利用できるメリットは大だ。

テキストアニメーション

ダイナミックHTMLを使った設定済み機能の1つに、テキストアニメーションがある。これを設定すると、ページを表示するときに選択したテキストが指定したパターンで所定位置まで移動する。動きのパターンは、ウィンドウ下部から上部へ動く「下からスライド」、左下から所定位置へ移動する「左下からスライド」、所定位置まで螺旋を描きながら移動する「スパイラル」、テキストサイズが大きくなる「ズームイン」、反対に小さくなる「ズームアウト」など14種類(図 b)がある。動く速度を変更することはできないが、テキスト範囲を選択してメニューからパターンを選ぶだけで設定できる。実に簡単だ。

簡単に設定できるから、いろいろなところに使ってみたくなる。しかし、それはかえて逆効果で、うとうしうしただけだ。作成中のフロン

トページウェブには、トップページの見出しと本文に使ってみることにした。

ページ切り替え効果

ビデオや映画を見ていると、シーンが変わるときに特殊効果を加えられることがよくある。フロントページ98でも、こうした切り替え効果をつけることができる。以前は考えられなかった、ダイナミックHTMLならではの機能だ。

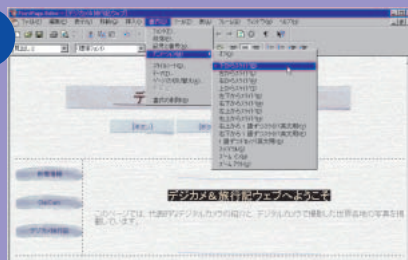
フロントページエディターで効果を加えたいページを開き、「書式」メニューから「ページの切り替え」を選ぶ(図 1)。表示されたダイアログで、切り替え時間といつその効果を加えるかを設定し、効果のパターンを決めるだけだ。

切り替え効果は、そのページが表示されたときに毎回付けることもできるが、ウェブサイトに入って最初に表示されたときだけ付けるような設定もできる。また、表示されたときではなく、別のページに移るときに切り替え効果をつけることも可能だ。切り替え効果は「ボックスイン」、「ボックスアウト」、「上へワイブ」など、全部で25パターンが用意されている(図 2)。

切り替え時間が長すぎると飽きられるが、短すぎるとわかってもらえない。少々面倒だが、切り替え時間を変えながらいろいろパターンを実際に試し、最適な設定を見つけよう。

さて、どのページに切り替え効果を使うかだが、今回は目次ページが最初に表示されるときに切り替え効果をつけることにした。効果のパターンは、「右へワイブ」あたりがいいだろう。

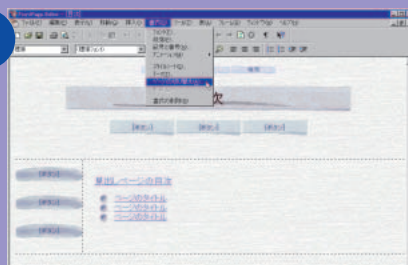
b



アニメーションさせたいブロックを選択して、「書式」メニューから「アニメーション」を選択。サブメニューに表示された14種類のパターンから1つ選ぶ。いくつかのパターンは英文でしか使えないので注意。なお、動く速度は変えられない。

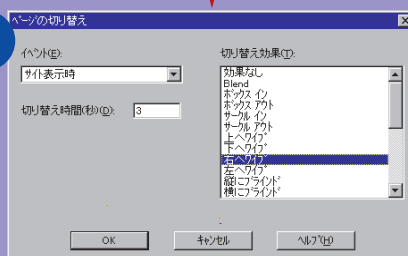
ページ切り換えの設定

1



フロントページエディターで目次ページを開いて、「書式」メニューの「ページの切り替え」を選択。

2



「イベント」のリストボックスを開き、「サイト表示時」を選択。これで、ユーザーが最初に「目次」にアクセスしたときだけ切り替え効果が付く。切り替え時間はとりあえず3秒にし、効果のパターンは「右へワイブ」を選択。

8

ゲストブックの追加

フロントページエディターの「ファイル」メニューから「新規作成」を選び、表示されたダイアログから「ゲストブック」を選択する。ファイル名を付けて保存すれば、ひとまずゲストブックの完成だ。

書き込まれたコメントはログファイル (guestlog.htm) に保存され、入力フォームの下に追加表示される。

次は、ゲストブックページのウェブ内のリンク設定だ。フロントページエクスプローラに移

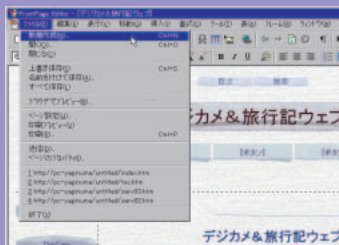
り、ナビゲーションビューを表示する。保存したゲストブックのファイルを、ファイル一覧表示エリアから階層表示エリアにドラッグ。トップページの1つ下の階層までドラッグしたところで、マウスボタンを離す。これで、ウェブ内に必要なリンクはすべて設定される。

これで完成だが、少し手直しをしてみよう。現在、ゲストブックにはコメント欄しかないが、できれば名前やメールアドレスも登録できるようにしたい。そこで入力フィールドを2つ追加

して、それぞれに名前とメールアドレスを入力できるようにしてみよう。

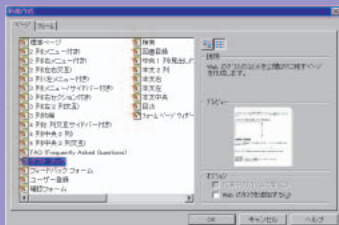
まず、作業しやすくするために、「フォームツールバー」を表示する。文字を挿入したい場所にカーソルを合わせて「名前」と入力する。次に、フォームツールバーの「1行テキストボックス」ボタンをクリックする。表示された入力フィールドが名前欄だ。同じように電子メールアドレス欄も作成する。

1



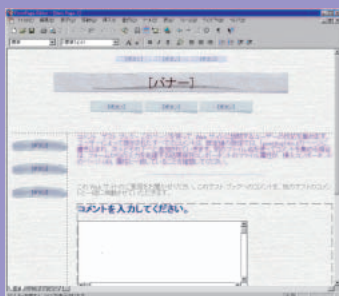
フロントページエディターの「ファイル」メニューから「新規作成」を選択する。

2



ダイアログの「ゲストブック」を選択して、「OK」をクリック。ファイル名を付けて保存する。

3



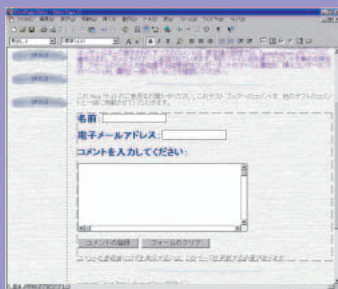
新規作成されたゲストブックの画面。

4



「表示」メニューから「フォームツールバー」を選ぶと、フォームツールバーが表示される。

5



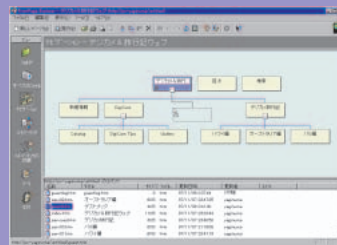
名前欄やメールアドレス欄は1行でいいので、ツールバーの「1行テキストボックス」ボタンをクリック。カーソル位置にフィールドが表示される。何を入力する欄が分かるようにするため、フィールドの前に「名前」「電子メールアドレス」と入力する。

6



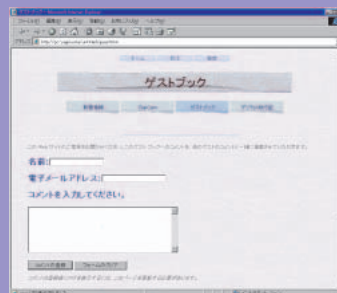
フィールド上で右クリックすると、「フィールドプロパティ」ダイアログが開く。フィールドの長さや名称などは、ここで変更できる。フィールドの長さを変えたいときは、表示されたダイアログの「文字の長さ」の値を変更する。最上段の「名前」は、フィールドの名称だ。デフォルトでは「T1」などとなっているが、分かりやすい名前に変えておくといい。また、「初期値」に入力した文字は、ユーザーがアクセスしたときフィールドに表示される。必要がなければ空欄のままでもいい。

7



フロントページエクスプローラのナビゲーションビューで、ファイル一覧エリアから階層表示エリアに、ゲストブックのファイルをドラッグ。トップページの1つ下の階層までドラッグしてボタンを離せば、ウェブ内のリンクが自動的に設定される。

8



完成したゲストブックのブラウザ表示。リロードすると登録したメッセージが表示される。

9



登録されたコメントは、guestlog.htm ファイルに書き込まれる。

9

掲示板の追加

ゲストブックとは違い、掲示板はフロントページエクスプローラで設定する。フロントページエクスプローラには、フロントページウェブ作成用にテンプレートとウィザードが用意されている。その中から「ディスカッションWebウィザード」を選ぶのだ。

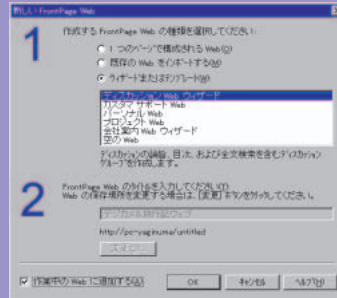
「ディスカッションWebウィザード」を選ぶ際に、注意しなければならないことがある。フロントページエクスプローラで、あらかじめ掲示板を追加するフロントページウェブを開いておくことと、ウィザードのテンプレート選択画面でダイアログ左下の「作業中のWebに追加する」をチェックすることの2点だ。

設定後にフロントページエクスプローラの適当なビューを見ると、「ディスカッション～」とタイトルが付いたファイルがいくつも増えているはず。これが掲示板用ファイルだ。その中の1つ、disc1_frm.htmをフロントページエディターで開くと分かるように、ウィンドウは上下2つのフレームに分割されている。今はまだ空白だが、上のフレームには投稿されたコメントのタイトル、投稿者の名前(またはニックネーム)と投稿日が順番に表示される。下のフレームは、掲示板のメインウィンドウで、今はメニューが表示されているが、目次のコメントタイトルをクリックすると、そのコメントが表示される。

投稿されたメッセージは、_disc1というフォルダーにメッセージごとに別ファイルで保存される。ただしこのフォルダーは非表示になっているので、そのままでは見えない。表示するには、フロントページエクスプローラの「ツール」メニューから「Webの設定」を選択し、表示されたダイアログの「詳細」タブをクリックして「隠しディレクトリのドキュメントを表示する」をチェックする。

必要に応じて説明文やページタイトルなどを書き換えたら、次はサイト内のリンク設定だ。要領はゲストブックのときと同じ。フロントページエクスプローラをナビゲーションビューにして、disc1_frm.htmを階層表示エリアのゲストブックと同じ階層までドラッグすればいい。

1



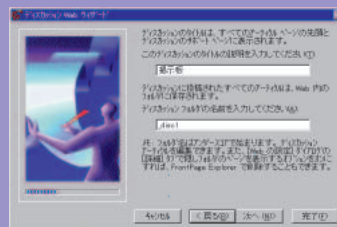
フロントページエクスプローラの「ファイル」メニューを開き、「新規作成」の「FrontPage Web」を選択。ダイアログから「ディスカッションWebウィザード」を選択して、左下の「作業中のWebに追加する」をチェックする。これで作成された掲示板関連のファイルは、すべて今開いているフロントページウェブ内に保存される。

2



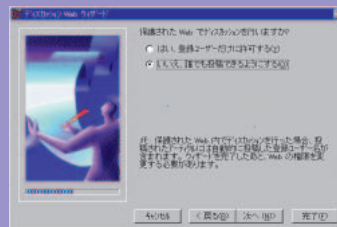
掲示板設定ウィザードは11ページで構成される。2ページ目で機能を選択する。デフォルトのままでもいい。

3



次はタイトルの設定だ。「掲示板」とでもしておこう。ディスカッションフォルダーの名前は、変更しなくていい。

4



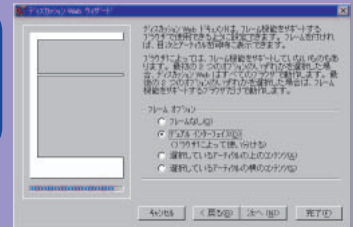
掲示板の利用を登録ユーザーだけに制限することもできる。今回は、誰でも参加できるようにした。

5



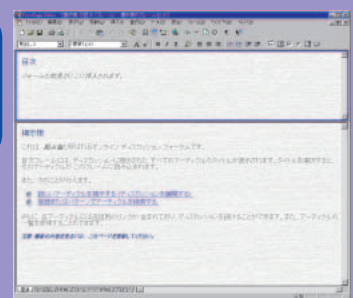
ディスカッションWebをウェブとして独立させる場合は、ディスカッションWebの目次ページをトップページにする。しかしここでは作成中のウェブに追加するので、「いいえ」を選ぶ。

6



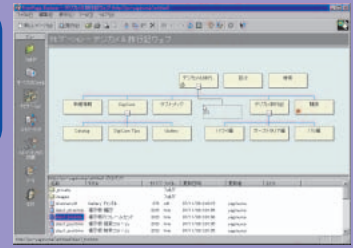
デフォルトの「デュアルインターフェイス」では、ブラウザがフレーム対応の場合はフレームで表示し、フレーム未対応の場合はフレームなしで表示する。

7



掲示板のフレーム設定ファイルdisc1_frm.htmをフロントページエディターで表示。上のフレームには投稿されたコメントのタイトルが表示され、下のフレームには掲示板メニューが表示される。なお、下のフレームは選択したメニューによって表示が変わり、発言するときにはコメント登録フォームが表示される。

8



フロントページエクスプローラのナビゲーションビューで、disc1_frm.htmをゲストブックなどと同じ階層にドラッグ。自動的に内部リンクが設定される。

10

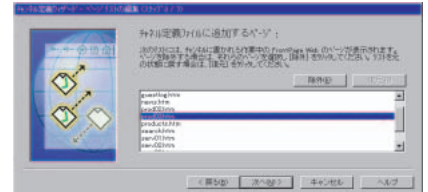
チャンネルの設定

「Gallery」は、これまでにデジタルカメラで撮った写真を載せるデジタルフォトギャラリーだ。このページ自体はギャラリーの目次ページで、ここから街、人、自然など被写体ごとに分類した展示ページへのリンクを設定する。

それとは別に、このページにはアクティブチャンネルの購読ボタンも付けよう。ギャラリーは写真主体のページだが、写真と文章を組み合わせたフォトエッセーのようなページを作り、それをチャンネル配信するのだ。ギャラリーの

目次ページには、購読ボタン以外に、チャンネルの紹介文とチャンネルをキャプチャーしたサンプル画面も載せておく。

チャンネル設定法は、前回解説したので今回は省略。注意するのは、ギャラリーの目次ページをチャンネル紹介ページとして設定すること、チャンネルページはフォトエッセーの1ページだけということの2点。ほとんどウィザード画面の「次へ」をクリックするだけで、CDFファイルの設定ができる。



「フロントページエクスプローラ」の「ツール」メニューから「チャンネルの定義」を選ぶと、「チャンネル定義ウィザード」が起動する。ウィザードの3画面目で、チャンネルとしてCDFファイルに登録するページを設定。チャンネル以外のページを選択して「除外」ボタンをクリックし、最後にチャンネルに変えるページだけ残せばいい。その後は、ほとんど「次へ」ボタンをクリックするだけで、

最後に

フロントページ98で作成したウェブの注意点

フロントページ98を使えば、ダイナミックでコミュニケーション機能を備えたウェブページを作成できる。しかも専門知識は必要ない。しかし、フロントページウェブを作成するときに注意しておきたいことがある。フロントページ98の機能の中には、ウェブサーバーによっては動作しないものがあること、ブラウザによっては表示できないものがあることだ。

アクセスカウンターやゲストブック、掲示板などにはCGIが使われる。このCGIを動作させるには、ウェブサーバーに「フロントページ・サーバーエクステンション」がインストールされていないと行かない。ウェブサーバーを自由にコントロールできる環境なら問題ないが、

プロバイダーのサーバーにウェブを発行する場合は注意が必要だ。今のところInfoSphereなど一部のプロバイダーしか、ウェブサーバーにフロントページ・サーバーエクステンションをインストールしていない。フロントページ・サーバーエクステンションに対応しているプロバイダーは、マイクロソフト日本語ウェブサイトの「Web Presence Provider」ページで確認できる。アクセスしてみよう。

一方、ブラウザ側の対応だが、フロントページ98で作ったウェブページに100パーセント対応できるのは、今のところインターネットエクスプローラ(IE)4.0だけ。それ以外のブラウザは、テキストアニメーションや画面切り

替え効果などを表示できない。これらの機能がダイナミックHTMLを使っているからだ。ネットスケープナビゲーター4.0もダイナミックHTML対応だが、IE4.0のダイナミックHTMLとは方式が違うため互換性がない。また、アクティブチャンネルもIE4.0でしか購読できないので注意しよう。

「Web Presence Provider」
(マイクロソフト日本語ウェブサイト)

URL：
<http://www.microsoft.com/japan/office/FrontPage/documents/isp.htm>

マウス操作で思いどおりの表を作成

フロントページ98は、前バージョンにはない数々の先進的な機能を備えている。どうしてもそういった新機能に目が行きがちだが、もう一つ忘れてはならないのが操作性の向上だ。中でも段違いに楽になったのが表作成だ。マウスボタンをクリックしたりドラッグしたりするだけで、自由自在に表を編集できるのだ。

ツールバーの「表の挿入」ボタンをクリックすると、ボタンの下に表のひな形が表示される。これをドラッグすると表のサイズが変わり、「表5×7」といった具合に列数と行数が表示される。作成したいサイズになったところでマウスボタンを離せば、カーソルのある場所に

指定したサイズの表が表示される。

表の編集や修正も、ほとんどマウスドラッグだけでできる。例えばセルの幅を変えたいければ、縦の仕切り線上にマウスカーソルを合わせて、マウスを左右にドラッグする。セルの高さも同じ要領で変更できる。行や列の削除と挿入も簡単だ。表の左端で左クリックすると、マウスカーソルのある行が選択される。この状態で右クリックすると、ポップアップメニューが開く。メニューから「行の挿入」を選べば1行挿入され、「セルの削除」を選べば選択した行が削除されるのだ。列を挿入したり削除したりしたいときは、表の上端で左ク

リックする。

同じ要領で、セルの分割や結合もできる。表内部でマウスをドラッグすると、任意の範囲を選択できる。ここで右ボタンをクリックする。ポップアップメニューを開いて「セルの結合」を選べば、選択範囲が1つのセルに結合される。また、「セルの分割」を選択するとダイアログが表示される。このダイアログで列を分割するか、行を分割するかを選び、分割する数を指定すれば分割完了だ。手作業では簡単に作れない複雑な表も、あっという間にできてしまう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp